

文協通信

第69号

2020・10・1

(一社)町田市文化協会

(発行)高野 宗佳

(編集)倉橋 幸二

題字・平野南秋

「この時だからこそできることとは…」

(一社)町田市文化協会会長 高野 宗佳

令和二年度が6月定時総会をもってスタート致しました。

二年間かけて定款の改善に臨み、お陰様で組織も整い、役員改選もあり、新たな出発～というところでいまだ新型コロナ禍は終息の見えない状況でございます。



しかし、この度の感染拡大を防止するため多くの方々が医療従事者又政府関係機関の皆様が昼夜問わないご苦労を重ねておられます事に、心から敬意を表すものでもございます。

さて、私たちに今できることは、感染をしないこと、させないことへ注意を払うことが第一ではございますが、文化活動に携わる者として自肅の在り方について様々に考えます。

コロナに負けず!と、今だからこそできることを考え「これだけの事しかできない」ではなく「これだけの事が出来た」と言えますような発想の転換と、臨機応変の柔軟性に富む対応で、更に今までの経験から培った知恵を出し合いつつ、文化活動を休むことなく続行出来ます様に、励んで参りたいものと存じます。

諸事情を鑑み、残念ながら今年の秋の市民文化祭は中止と決定致しました。しかし地域の文化力を高めるべく、多くの市民の参加型文化祭を次回は開催できます様、文化協会として力を蓄えて参る所存でございますので、引き続きご理解とご協力の程お願い申し上げます。



「コロナに負けるな!令和2年度上半期を振り返って」

(一財)町田市文化・国際交流財団 事務局長兼文化団体支援室長 宗田 隆由

今年も早いもので上半期が終了します。今年の1月末から徐々に影響してきた新型コロナウイルス感染症も、終息が見えない状況のなか、様々な分野で影響が出ています。とりわけ大きな影響を受けたのは、文化・芸術活動ではないでしょうか。当財団でも2月以降、ホール等の利用に影響が出始め、3月末から6月初めまで休館するとともに今年度の財団主催の事業はすべて中止となりました。最近では入場制限・マスク着用・3密回避など感染防止対策をご理解いただき、徐々に利用状況も改善しておりますが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。

このような状況の中、秋の町田市民文化祭の中止は大変残念なことではありますが、高野会長はじめ関係者の皆様のご判断に改めて感謝を申し上げます。皆様方におかれましては、この時期を新たな活動の準備期間として捉え、大事にお過ごしいただければ幸いです。当財団におきましても、安全に安心してご利用頂ける環境を整えお待ちしております。

最後に、町田市文化協会の皆様のご理解ご協力に感謝するとともに皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



お知らせ

令和2年度定時社員総会

令和2年6月22日、密を避ける為市民ホール2階ロビーを会場として定時総会が開催されました。新型コロナウイルス感染防止の為、総会決議事項について書面決議を提案し承認され総会決議事項はみなし決議を行うこととしたが、社員79名中3名の同意書が提出されなかったため定時総会を開催する事となった。出席社員数78名中本人出席3名、委任状出席75名。第1号議案から第6号議案全て承認可決され、理事は高野会長、三竹副会長、浅野目副会長、重任2名、新理事5名で10名、新監事2名の新体制でのスタートとなった。



令和2年 第43回「町田市民文化祭」 秋の催し 中止

令和2年10月29日から11月4日の間で開催予定でありました第43回「町田市民文化祭」は、文化協会としましては、規模を縮小して何とか実施したいと慎重に検討してまいりましたが、新型コロナウイルス感染が収束しない現状を鑑み、またさまざまな関係者の方にもご迷惑をおかけしてしまうことも懸念され残念ながら中止させていただくことに決定しました。宜しくご理解のほどお願い致します。

訃報



当文化協会の副会長として重責を担っていました原田律子氏が6月7日にご逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。原田律子氏は町田市民踊親和会の会長として活躍され、会員の皆様から慕われ頼りにされる素晴らしい代表でした。また当文化協会においても副会長として舞台部門を統率されて秋の文化祭や賀詞交歓会においても重要な役割をお任せしておりました。原田氏のご逝去は町田市の文化・芸術の発展において誠に残念なことです。ご冥福をお祈り申し上げます。

賛助会員より

■ 文化&科学技術とコロナ禍の渦 ━━━━━━ 学校法人 東京町田学園 井上 博行

人類は古代より、土器、絵文字等文化の創造により進化して来ましたが、今日「コロナ」と言う目に見えない相手と共に生し、同時にIT化によるテレワークと称して、科学技術の力と融合する時代に入りました。文化協会の主な要素は人間力にあると思います。人を楽しませ、自身の成長を求める糧として多くの出来事があります。私も八十歳の手習いとして、書道連盟の宮本博志会長・齊藤千尋先生のご縁をいただき、揮毫の本質を学び始めました。私達は時代を越えて、日本の誇れる伝統文化を引き継ぐ重要性を再認識しなければなりません。今回の教訓は、新型コロナ菌対策と称して、三密は手洗い、消毒、顔にマスク、人との接触を八割減少させるなど、リスクコミュニケーションとの向き合いから離れるために新薬の開発を願うと共に、従前の開かれた教育、文化活動が復活されますよう願っている次第です。関係者皆様の変わらぬ利他主義と協会のご発展を願っています。



■ 令和2年晚夏 ━━━━━━ カーテンショップ森の風 大塚 信彰

機関紙への投稿のご依頼をいただき大変うれしく感じております。さて、私も市議会議員を退任して早いもので10年が経過しております。この間、議会で得た知識により再度、街のあらゆる事柄を仄聞するに、なんとなく違和感を感じているところであります。市民の皆様が取り組んでおられる各分野の事柄がそれぞれ交流出来ればと。特にこの時期コロナ騒ぎによりステイホームと言われ情報交換が出来にくくなっています。現在、商工会議所副会頭として、また、中心市街地活性化協議会会长として地域の経済のあり方の今後を考えた時、地域にある資源を活用していくことが大変必要なことと思っています。文化と経済、文化と教育、文化と地域社会、これらがまさに融合してのみ、日本の再生があるものと確信するところであります。文化協会の高野会長をはじめとして会員の皆様が地域のリーダー役として「飽きずに諦めずにわくわくと」をモットーにご活躍いただきますよう心よりご祈念申し上げます。



顧問より

■ 「コロナ」時代を考える

(一社)町田市文化協会顧問 小田中 柑子

最近では、毎日午後三時のテレビニュースを見ることにしている。そのトップは決まって今日のコロナ感染者の数である。一喜一憂はしているものの、この先どうなるのか、私たちの生活は?日本の経済は?

コロナ禍や テレビに飽きて 三尺寝 柑子

この俳句は先の句会では採られなかった。社会性の句はもともと鑑賞にならないようだ。しかし、最近はこんな俳句も目に止まるようになった。

コロナ禍、つまり「密」となるような集会などは避け、公共施設でのイベントは自粛とされた。そのような情況下にあっても会報28号「町田の文化」を何とか纏めることができた。編集者や総括の会長の苦労のお陰である。

今年度のこれから編集は、コロナの趨勢如何と思われる。コロナ禍はいまやパンデミックな全世界に及ぶに至った。終息を迎える様相がはっきりしない以上、この難局を乗り越える毅然とした覚悟が必要ではないかと思う。

秋の雷 コロナの至難 あやぶみて 柑子

このような俳句が罷り通るようでは困るのだが…。

■ 顧問就任のご挨拶

(一社)町田市文化協会顧問 春畠 陞

先日来、高野会長より、文化協会顧問として協力して欲しい旨、懇意なお誘いを頂いていましたが、紆余曲折の末結局御受けすることになりました、一言ご挨拶申し上げます。

六年前一般社団法人となった文化協会は今年四十三年目を迎え、その充実振りは目を見張るものがあります、厳しい環境を強いられていた過去を思うと、今昔の感に堪えません。例えば「市民囲碁大会」、森野分庁舎の一室を借りて開催していた時期があります。休館日で、正面玄関が閉じられているため選手も担当者もビルの裏口から、警備員のチェックを受けて入館していました。当然の事乍ら観戦者等あるはずもありません。まるでこっそりと隠れて市民囲碁大会を開くような惨状でした。月例理事会の会場も無く、故須藤会長のご自宅を提供して頂くような始末でした。他にも急を要する問題山積で、これは他の年代も似たり寄ったりで、よくぞ乗り越えて来られたと感謝しております。これには交流財団様の深いご理解と温かい御協力御指導があったからこそで、これなしには決して語る事はできません。今後も色々と問題は発生するでしょうが、従来同様町田の文化向上のために、皆で力を合わせて乗り越えて行きたいと思います。

各団体より「コロナに負けるな 一コロナ禍での活動報告一」

■ コロナウイルスに負けるな ————— 町田華道協会会長 広瀬 啓友

皆さんいかがお過ごしですか

新型コロナウイルスによる自粛生活のなか、華道協会展も、武相華道展も中止となりました。市民文化祭、第7回新春いけばなの集いは、財団の市民ホールのコロナ対策による利用制限などを考慮して中止することに決定しました。

6月8日に緊急事態宣言は解除されましたが、コロナ感染者数はまえにもまして日に日に数を増すばかりです。

とにかく今は感染防止の社会生活です。検温、マスク着用、手指の消毒、神経が休まりません。「うつらない、うつさない」一日も速く新薬が開発されることを望んでいます。

華道協会の諸行事の中で、協定を結んで取り行っている市庁舎の迎え花、ポプリホール鶴川の迎え花があります。来訪者の心の癒しになってくれると思いながら会員が生けています。今年は特に花の力を借りて「コロナウイルスに負けるな」と願って生けています。



市庁舎とポプリホールの迎え花

■ コロナ感染予防対策万全の詩吟教室 ————— 町田市吟詠連盟理事長 川添 吟照

吟詠連盟では一部の会を除き多数の会派が、詩吟教室を実施しています。私達の連盟は高齢の会員が多いため練習している各教室では、コロナに負けないコロナ禍対策として、次のような万全の対策を講じて実施しています。

詩吟は大きな声で発声する事が有りますので、特に飛沫感染対策などには十分注意を払い実施しています。三密を回避するため各会派は次の予防対策を徹底し練習時間を使っています。教室に参加する人には検温を行う、教室使用前後には、出入り口ドアノブ、テーブル、椅子など各人が共通して使用する箇所の消毒、会員はマスクの着用、会員間の安全距離の確保、使用前のドア・窓の二方向換気を行う、また、使用時は三十分に一回程度で室内換気を行う、指導者・会員はフェイスシールドの着用、お喋りをしないなど各会派は最善の策で行っています。

■ 新しい時代を乗りこなすために… ————— (一社)WHAIS代表 岡野 美紀子

本年度から町田市文化協会の理事・正会員になりました「WHAIS(ワイズ)」は、女性建築家・デザイナーのプロジェクトチームです。メンバーはさまざまな分野で活躍していますが、「人と会う」という当たり前が当たり前でなくなったこの数か月、私たちのツナガリを支えてくれるのがオンライン会議です。事前に作成した資料やパソコンの画面を共有しながら詳細なことまで打ち合わせを進めることができます。またオンライン飲み会などちょっとスタイルを変えて、コミュニケーションを深めているメンバーもいます♪



新しい時代を乗りこなしていくために、まだお会いしたことのない方々に会えるように、ホームページも新しくなりました。今だからこそできることがあるはずと、みんなで考え寄り添い知恵をだす良き仲間たちがいます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■ コロナに負けずに ————— 町田茶道会副会長 有賀 仙陽

令和2年、町田茶道会の活動は例年通りポプリホール新春茶会から始まりました。そして、男女平等フェスティバル“なごみ茶会”が済み、2月の月例茶会を終えた頃には、新型コロナウイルスの問題で世情が慌ただしくなって来ました。2月24日には茶道会でも緊急役員会を招集、3月の月例茶会を中止とし、以後月例茶会及び諸行事は全て中止にしています。



しかし、茶道会としてもコロナに負けているわけにはいきません。「今出来ることを肅々とやりましょう」と役員・理事会を重ね、話し合ってきました。9月には「茶席の道具組」の研修会を、入席人数を調整して行っています。また新たに「茶道会便り」を発行し、外出できにくい先生方にも少しでも情報提供し、会員同志の心のつながりを持ちながら、この困難な時期を乗り越えて行きたいと思っています。

■ 自粛中は通信句会を ————— 町田市俳句連盟会長 小林 絹子

コロナ禍と言う厳しい環境におかれている現状ではありますが、俳句連盟と致しましては、「通信句会」と云う手段をとりました。とにかく逆境にもめげず、休む事なく詠み続けることが肝要であります故に、毎月の兼題句や詠み込み句等々に、大いなる心を開きつつ自分自身をも寂かに見つめる時もあると思いました。

俳句は先ず物事を見ることから始まりますが、その物を見て何かを感じ、何を思うか…絵画にしろ、文章にしろ現実に見えるありのままを描こうとすると狭く想像力を失せてしまうのでは無いでしょうか…。

この様な状況の中で、俳句作品や俳句作家は何を詠み、どの様に訴え続けて行くべきか～改めて考えてしまう昨今です。俳句連盟では何時も寛大な優しい胸を広げて入会をお待ちしております。

■ コロナ禍での活動

私たちは、音楽を通して、老若男女を問わず一つの場に集まり交流をするというのを大事にしています。当初、新型コロナはすぐに収まるものと期待していましたが、この災禍はすぐには収まらないと、全員で対策をたてました。音楽活動では三密を避けることは、大きな制約ですが、下記の対策を行い活動を維持しています。

- ① 韶きの森オーケストラは少人数のアンサンブルにしました。
 - ② リコーダーサークル「和*和」は一回の参加者を減らしました。
 - ③ 日本の歌「和*歌」は歌唱を中止し、音楽を聞く活動に変えました。
 - ④ Cafe 韶きの森 de ランチ会(認知症カフェ)は、一回の参加者を減らしました。
 - ⑤ 「韶きの森便り」を発行することで、利用者との繋がり維持に努めています。
- 「韶きの森便り」は大変好評で、たくさんのお返事をいただいている。音楽の灯火を消さないように工夫をして活動しています。



Cafe 韶きの森 de ランチ会

■ コロナ禍の中で、アロハー

東京町田フラ協会より 元気な6名

■ ピリアロハ石橋

私は、自粛々と約4ヶ月半、始めはたまにはのんびりと家にいるのも良いかと楽しんでおりましたが、気がついたら心も身体もどこか変になって落ち込んでいる自分がおりました。「衣食足りて礼節を知る」等と昔から言われますが、それだけで生きていけない自分が居りました。なんと贅沢な生物なの？ 人間だもんね！ 「コロナ禍は 心にかかりし 秋簾」

■ 大野 悅子

新型コロナウィルスの影響で各施設が利用禁止となり、何時もはあっという間に日が過ぎた生活が巣籠り生活へと一転、はて何をして一日過ごそうかと考え、普段は落ち着いてできなかった手芸をすることに決め早速取り掛かりました。何日も続いているうちに、今のこの生活もよいかな？とふつと感じました。7月から施設が再開となり元の忙しい毎日が戻ってきましたが、まだまだコロナ禍にあります。一日も早く収束することを願っております。

■ 小野 まゆみ

2月の中頃から「コロナ」という聞きなれない言葉を耳にするようになりました。ある教室では「先生、来月からお休みにしてください」と言われ自粛以前に休みを決めました。そして3月、4月……未だに再開していません。テレビや新聞でも今日は何人感染その数字の大きさ、まだまだ収束が見られず不安や心配でいっぱいです。目に見えぬ菌との戦い、難しいですね。ワクチンの完成が心より待ち望れます。

■ 村井 世子

令和2年3月8日、いちょうホール。今年最初の舞台でした。衣装もつくりプログラムを用意して本番を待つだけというときに「中止」の連絡です。コロナウイルスが蔓延しているので仕方がないのですが、ショックは大きく、立ち直るのに時間がかかりました。それからは日を追うごとにイベントは中止となり教室も3月から6月まで閉鎖しました。7月になって少人数で教室を再開しましたがマスクをしての稽古はとても辛いです。一日も早く全員が笑顔で教室に戻ってこれることを願いながら「新しい生活」のもと稽古に励んでおります。

■ 藤原 妙

「新コロナ 映画の世界 みてるよう」

何事も私共がこの世で経験するすべてに深い意味があり無駄なことは一つも無いそうです。ならば私達は忠実に対策を守り一日でも早い収束を願うのみ。ガンバリましょう！

■ 井上 邦子

コロナで、パッと咲いて消える花火のように文化が消えた暗闇の状況を詠んだ駄作です…

「コロナ禍は 憂う文化の 花火かな」



個人・団体情報

第6回美をひらくマチダシリーズ

第10回創展(入場無料)

主 催 創作陶芸紅土会(町田市紅土窯)
期 間 令和2年10月10日(土)~14日(水)
会 場 町田市文化交流センター6階
出 品 者 須藤淑子はじめ紅土会有志10名
後 援 町田市、(一社)町田市文化協会、
町田市文化芸術振興議員連盟

この創展を最後に、創作陶芸紅土会の創作活動は終了します。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

(一社)町田市文化協会研修事業のお知らせ 「落語文化に親しむ会」

出 演 立川晴の輔

日 時 11月9日(月)12時(11時半より受付)

会 場 ホテルラポール千寿閣

会 費 4000円(食事つき)

連絡先 池田(090-7479-3231)

昼食、会員活動上映、実演の後、落語を堪能します。

一般社団法人 町田市文化協会

会 長：高 野 宗 佳
住 所：〒194-0211 町田市相原町850-17
T E L：042-779-0253
E m a i l：machida.bunka@gmail.com